

研究員 の眼

逆張りされる国内株式ファンド ～2017年5月の投信動向～

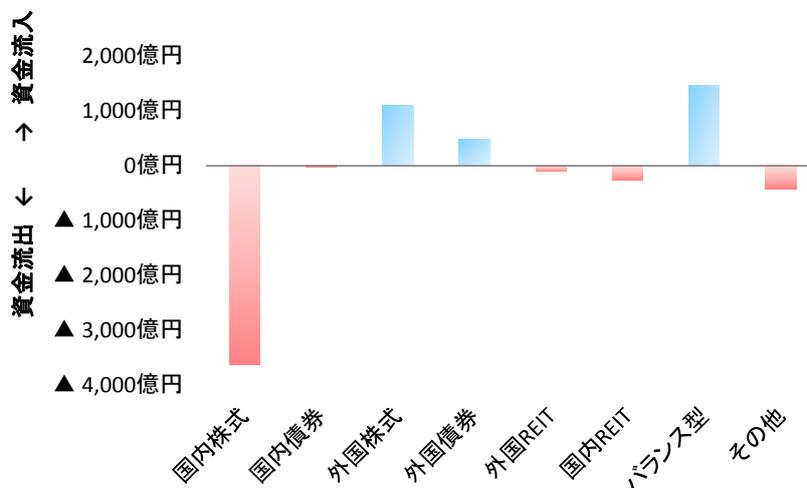
金融研究部 研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

国内株式から大規模な資金流出

2017年5月の国内公募追加型投信（ETFを除く）の推計資金流出入を見ると、国内株式からの資金流出が大きく4,000億円に迫った【図表1】。内外REITについても、4月から引き続き資金流出であった。その一方で、外国株式とバランス型には資金流入していたが、流入金額はともに1,000億円台と小幅であった。

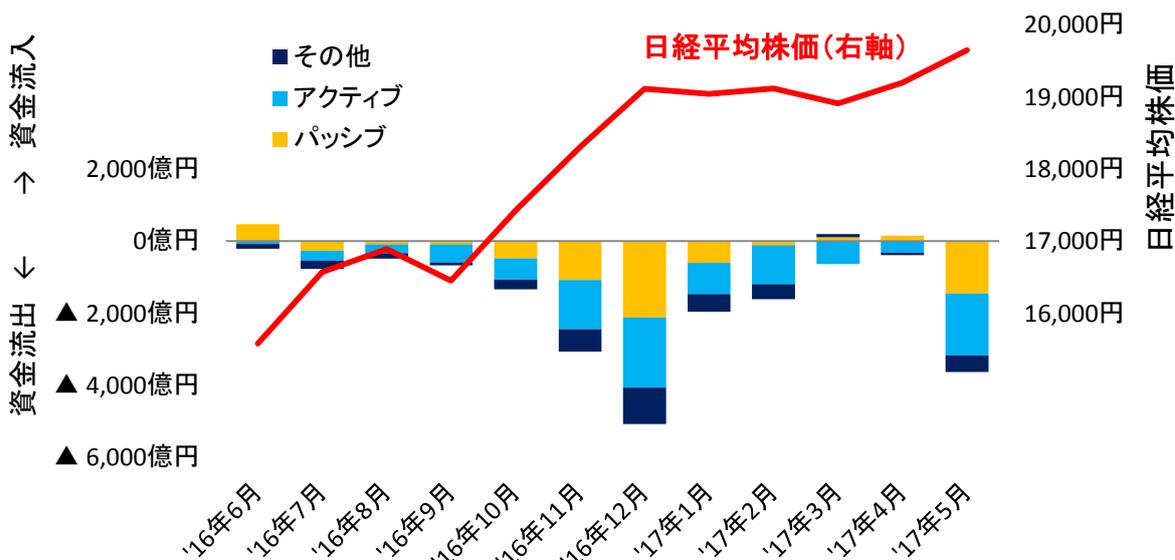
国内株式は、1年近く資金流出が続いている【図表2】。ただ、3月と4月はパッシブ・ファンド（黄色棒）に限ると資金流入に反転するなど、2017年に入ってから流出金額自体は減少傾向にあった。それが、5月は月前半に日経平均株価が再び一時2万円目前に迫るなど国内株式が上昇する中、パッシブ、アクティブともに1,500億円を超える資金流出となった。月後半に日経平均株価が1万9千円台に定着した昨年12月以来のことである。国内株式を逆張る投資家が多いことが分かる。

【図表1】 2017年5月の国内追加型投信の推計資金流出入



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者集計。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】国内株式ファンドの資金流入と日経平均株価の推移



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者集計。2017年5月のみ推計値。

また外国 REIT については、流出金額が 100 億円程度と 4 月（200 億円）と比べて小さかった。人気外国 REIT ファンドの分配金の引き下げをきっかけに昨年 11 月から資金流出が続いているが、分配金引き下げに伴う解約が一巡してきたのかもしれない。

AI ファンドが引き続き人気

個別ファンドへの資金流入を見ると、毎月分配型のファンドと合わせて AI（人工知能）関連ファンドに資金流入した【図表3】。4位の「ダイワ・グローバル IoT 関連株ファンド -AI 新時代-」は 4 月に設定されたテクノロジー系の企業に投資するテーマ型のファンドである。その一方で為替ヘッジなしが 5 位、為替ヘッジありが 6 位となった「ブラックロック・米国小型株式 ビッグデータ戦略ファンド」は米国の小型株の優良銘柄を選別する際に、AI を使ってビッグデータを活用している 5 月新設のファンドである。3つのファンドは 2 月に設定された「野村グローバル AI 関連株式ファンド」や「GS グローバル・ビッグデータ投資戦略」と比べるとやや低調なスタートであるが、AI ファンドに対する投資家の関心が引き続き高いことがうかがえる。

また、2 位にインド株式ファンド、9 位にインド・ルピーの通貨選択型ファンドが入った。4 月から引き続きインド関連ファンドの人気も高かった。

【図表3】2017年5月の推計純流入ランキング

| 順位 | ファンド名 | 運用会社 | 5月の推計純流入 | 純資産 5月末時点 |
|-----|--|---------------------|----------|--------------|
| 1位 | LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型) | レグ・メイソン・アセット・マネジメント | 520 億円 | 5,533 億円 |
| 2位 | 野村インド株投資 | 野村アセットマネジメント | 298 億円 | 3,258 億円 |
| 3位 | 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース(為替ヘッジあり 年2回決算) | 野村アセットマネジメント | 283 億円 | 935 億円 |
| 4位 | ダイワ・グローバルIoT関連株ファンド -AI新時代-(為替ヘッジなし) | 大和証券投資信託委託 | 274 億円 | 540 億円 |
| 5位 | ブラックロック・米国小型株式 ビッグデータ戦略ファンド(為替ヘッジなし) | ブラックロック・ジャパン | 267 億円 | 265 億円 |
| 6位 | ブラックロック・米国小型株式 ビッグデータ戦略ファンド(為替ヘッジあり) | ブラックロック・ジャパン | 253 億円 | 252 億円 |
| 7位 | ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) Bコース(為替ヘッジなし) | 大和証券投資信託委託 | 227 億円 | 7,091 億円 |
| 8位 | ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド(毎月決算型) | ニッセイアセットマネジメント | 214 億円 | 1,213 億円 |
| 9位 | 国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)インド・ルピーコース(毎月) | 三菱UFJ国際投信 | 197 億円 | 769 億円 |
| 10位 | アムンディ・ダブルウォッチ | アムンディ・ジャパン | 186 億円 | 936 億円 |

(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用ファンドは除く

国内株式の中小型成長株ファンドでも逆張り

5月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、上位9ファンドが国内株式ファンドとなった【図表4】。その多くが中小型成長株ファンドであり、国内中小型成長株の健闘が目立った。

5月の国内株式市場は、前半は堅調であったが、後半に円高に反転したこともあり外需系の大型株を中心に伸び悩んだ。そのため、国内株式市場全体(TOPIX)は2%強の上昇にとどまった。ただ、中小型の成長(グロース)株に限ると、Russell/Nomura日本株インデックスの中小型グロースの上昇率が6%を超えるなど、大きく上昇した。その様な市場環境に加えて、銘柄選別でプラスアルファが取れた中小型成長株ファンドの収益率は10%を超え、パフォーマンスが特に良好であったといえる。

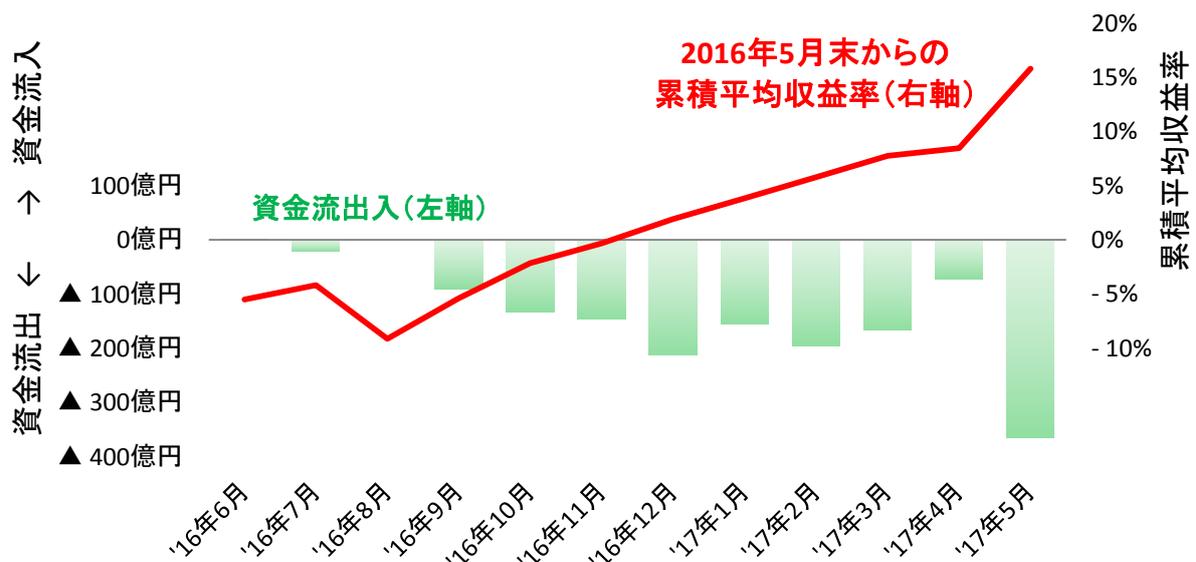
イボットソン分類で「国内株式・中小型成長型」のファンドを集計してみたところ、昨年9月から右肩上がりに上昇しているが、その一方で資金流出が続いている【図表5】。特に、足元5月は370億円弱と大規模な流出であった。集計した国内株式の中小型成長株ファンドの5月末時点での純資産残高総額が7,000億円弱であったため、全体の5%が5月に解約されたことになる。中小型成長株といえば、株式の中でも特に長期保有して業績拡大に伴う株価上昇を狙うイメージがある。しかし、実際には国内株式全体と同様に逆張りされる傾向があり、ある程度利益が出たところで売却してしまう投資家も多いようだ。

【図表4】2017年5月の高パフォーマンス・ランキング

| ファンド名 | 運用会社 | 5月の収益率 | 過去1年収益率 | 純資産5月末時点 |
|-----------------------------------|--------------------|--------|---------|----------|
| 1位 JPMジャパン・テクノロジー・ファンド | JPモルガン・アセット・マネジメント | 14.3% | 80.2% | 29億円 |
| 2位 ダイワ新興企業株ファンド | 大和証券投資信託委託 | 13.8% | 18.8% | 63億円 |
| 3位 日興グローイング・ベンチャーファンド | 日興アセットマネジメント | 11.5% | 42.1% | 81億円 |
| 4位 小型株ファンド | 明治安田アセットマネジメント | 11.5% | 38.5% | 98億円 |
| 5位 日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本・小型株・ファンド | 三菱UFJ国際投信 | 11.4% | 28.7% | 26億円 |
| 6位 SBI小型成長株ファンド ジェイケール | SBIアセットマネジメント | 11.2% | 38.8% | 53億円 |
| 7位 Jオープン(店頭・小型株) | 三菱UFJ国際投信 | 11.2% | 29.6% | 56億円 |
| 8位 ジャパニーズ・ドリーム・オープン | 三菱UFJ国際投信 | 10.9% | 27.4% | 17億円 |
| 9位 女性活躍応援ファンド | 大和証券投資信託委託 | 10.8% | 30.3% | 21億円 |
| 10位 SBI日本・アジアフィンテック株式ファンド | SBIアセットマネジメント | 10.7% | | 25億円 |

(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

【図表5】国内株式の中小型成長株ファンドの資金流出とパフォーマンス



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者集計。2017年5月の資金流出のみ推計値。

イボットソン分類が「国内株式・中小型成長型」のファンドを集計。収益率は月初純資産総額加重平均

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。